がん薬物療法の副作用対策に関する研修会

がん対策基本法の成立（２００７年４月）により、がん対策推進基本計画（２００７年６月）が策定されました。この中でがん医療の均霑化が謳われ、２０１２年６月の見直しではさらにがん化学療法の更なる充実とチーム医療の推進が目標として掲げられました。今回の研修会はこのような背景で、がん化学療法の更なる充実に資する事を目的に、がん診療連携拠点病院である当院において開催されました。昨年末に開催は決まったものの、６０分で副作用対策をいかにしてわかりやすく話すか?というのは難問で、悩んだ挙げ句に、腫瘍内科の立場で日々努力していることを話すしかないという結論に達し、当日を迎えました。

せっかくいい機会をいただいたので、まず伝えておきたかったのは、副作用対策は医療者の視点からだけ見るのではなく、必ず患者さんの立場で考える事を忘れないで、ということでした。掃いて捨てるほどあるマニュアル（もちろん中には役に立つ本もあるにはあるのですが、残念ながら多くが、他人の受け売りです）やガイドラインの通りにすれば良いのではなく、そこを越えて、患者さんが治療を受けたくないと感じることがないように、可能な限り副作用を軽くするという強い気持ちが我々には必要です。個別の対応策については時間の関係でテーマを絞りましたが、血液内科医として骨髄抑制への対応、腫瘍内科医として口腔ケアを含む消化器毒性への対応については少し多めに時間をとりました。古典的な化学療法剤のみの時代から普遍的なテーマであるこの両者に比すれば、昔はほとんど取り上げられなかったであろう、やっかいな皮膚障害への対応、あるいは infusion reaction への対応についても少し触れました。B型肝炎ウイルスの再活性化の問題は、血液内科が最初に対応を始めたこともありますが、すべての化学療法に際して（固形がんも含めて）確実な対応が必要ですので、既に周知のことですが、念のために再度その点を強調しました。さらには分子標的薬の副作用という視点から見てみると副作用はどう見えるのかを考えて、その作用機序から、ＥＧＦＲ阻害薬系の、皮膚障害と肺障害、ＶＥＧＦ阻害薬系の、血管系（心、腎を含む）の障害について概説いたしました。そして分子標的薬の種類別に考えると、という立場から、抗体薬の副作用、マルチキナーゼ阻害薬の副作用について触れたところで、ほぼ予定通りに制限時間となりました。

抗がん剤の血管外漏出や脱毛・全身倦怠感への対応、あるいは二次発がんや不妊の問題など触れなければならない重要な点がまだ多数ありますが、これらについての対応はまた別の機会に譲りたいと思います。平日の且つ少し早い開始時刻にも関わらず院外の多数の施設から参加してくださった皆さんの診療に、実際にお役に立てる知識が一つでもあったとすれば望外の喜びです。当院の診療科の開設からまもなく1年になります。役に立てる腫瘍内科にすべく医師も増員してさらに努力する所存ですので、引き続き御指導・御鞭撻の程どうぞ宜しくお願い致します。

（文 責：腫瘍内科部長　魚住　公治）

第4回 NST専門療法士教育研修 報告

通算第4回となる鹿児島医療センターNST専門療法士認定教育実地修練が平成26年1月27日から2月7日の期間の水曜日を除く平日午後8日間（合計40時間）に渡り開催されました。当院は日本静脈経腸栄養学会認定のNST専門療法士実地修練認定教育施設であり、NST委員会委員長（JSPEN認定医）であるリハビリテーション科医長が実地修練の責任者となり、当院NSTコアメンバーの全面協力のもと運営されました。今回は、研修対象生をNST専門療法士認定試験受験検討中の方に絞った関係で、鹿児島県内の2病院から管理栄養士1名・言語聴覚士1名、と例年よりやや少ない受講生の数となりました。

研修プログラム（合計40時間）内訳は、NST回診参加・NSTカンファレンス出席・嚥下回診参加：7時間、講義受講：15時間、栄養評価実技（嚥下造影検査、間接熱量計計測、運動療法実習）：3時間、その他（情報収集、カンファレンス準備、レポート作成など）：15時間でした。講義（各30分～1時間）は医師・歯科医師・管理栄養士・薬剤師・看護師・言語聴覚士が講師となり、内容は、①NST活動における医師の役割、②栄養スクリーニング方法、③経腸栄養剤・栄養補助食品の種類と選択及び問題点、④静脈・経腸栄養剤の種類と選択の問題点、⑤嚥下訓練食紹介、⑥栄養障害の抽出・評価、⑦脳卒中と栄養、⑧褥瘡と看護管理、⑨消化と吸収および胃瘻造設、⑩栄養と代謝、⑪心不全・呼吸不全と栄養管理、⑫集中治療の栄養管理、⑬外科と栄養、⑭歯科による口腔管理、⑮NSTと感染対策、⑯摂食嚥下障害、⑰脳卒中と口腔ケア、⑱エネルギー代謝と心肺運動負荷試験、⑲がん患者の口腔ケア、⑳NST薬剤師の役割、と非常に多彩でした。今年は新たに消化器外科医師、がん放射線療法看護認定看護師が講師陣に加わり、より充実した講義を企画できたのではないかと思います。

症例報告は最終日までに受講生各々に栄養障害が疑われる対象症例1例をレポートとしてまとめて提出していただきました。当院在籍のNST専門療法士を中心に指導を行い、短期間で内容のあるレポートが作成されていました。最終日に研修修了証明証を各々に授与し、全日程を終了いたしました。2週間という長期プログラムでしたが、受講生は自病院の仕事との並行あるいは遠方からの来院であったにもかかわらず、一日も休むことなく参加され、有意義な研修であったようでした。

課題としては、実習期間中のNST新規介入患者が少なかったこと、NST介入対象者に重症患者が多いため短期間での改善を実感しにくいこと、などが挙げられました。過去3回の研修生の中から3年続けてNST専門療法士受験合格生が誕生しており、今年度の受講生の成果も期待したいところです。平成26年度の研修開催につきましても、これまで同様に当院ホームページ上でご案内いたしますのでよろしくお願いいたします。

（文 責：リハビリテーション科医長　鶴川　俊洋）

新任紹介

第一循環器内科
久保 忠弘

2月から第一循環器科で勤務している久保と申します。先輩たちが「南中」と言っていた現医療センターは初めての勤務です。研修の期間が終わり、初めて第一線の病院で勤務した時代に振り返り、循環器病学を勉強したいと思います。せっかちな性格と不慣れなことがあり、ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いします。

第一循環器内科
安﨑 和博

平成26年2月より出水郡医師会広域医療センターから第一循環器科へ異動となりました。全く異なる環境で不慣れなことも多く、大きな病院の中でさまよいながら勤務しております。心臓カテーテル検査・治療を始め、さまざまなことを吸収していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

平成25年度 中間管理者研修会

平成２５年度の中間管理者研修会が平成２６年1月３１日と２月1日の２日間、例年通り国民宿舎レインボー桜島で、たくさんの職員が出席して開催されました。当日は1月末というのに非常に暖かくすでに春を感じさせるような気候で、また桜島は少量の噴煙をあげていました。今年は近い将来の病院の建て替えを含めた”病院の将来構想”についてというテーマで、1日目は花田院長より病院の現状と将来の展望について講演がありました。当院のおかれたなかなか厳しい現状の中、鹿児島県を取り巻く医療情勢から当院が将来どのように発展していくかについて指針が示されました。活発な質疑応答もなされました。その後午後8時から懇親会が催され、多職種の職員がそれぞれに交流を深めました。当日宿泊組は宿舎のマグマ温泉を楽しんだり、さらに夜が更けるまでお酒を酌み交わし活発な意見交流がなされたようです。（私はマグマ温泉のおかげでぐっすり眠ることができました）

２日目は部門ごとに７つのグループにわかれ（病棟・外来部門は循環器、脳卒中、救急・手術室、がん、薬剤科・検査科・放射線部、事務部、教育・研修）それぞれに病院の将来構想について話し合いました。話し合いの後、循環器科部長薗田先生とリハビリテーション科鶴川先生、東６階病棟岡本師長の３人に座長をお願いして、それぞれのグループの発表が行われました。短時間の間の話し合いにも関わらず、それぞれ活発な討議がなされ、発表にも熱がこもり時間が足りないというような光景も見られましたが、何とか時間通りにスケジュールが進行し、皆様のご協力のおかげと実行委員会一同感謝申し上げます。最後に皆越副院長より講評をいただき今年の中間管理者研修を終えました。

しかしながら今回の”病院の将来構想”については中間管理者研修1回で終わるテーマではなく職員全体で今後何回も話し合って行くべきと考えられ、引き続き職員全員がこのテーマで何回も検討すべき課題と強く感じました。

（文 責：血液内科医長　大塚　眞紀）

日本医療マネジメント学会第13回九州・山口連合大会

本年9月に日本医療マネジメント学会第13回九州・山口連合大会を開催します

日本医療マネジメント学会第13回九州・山口連合大会を当センターの花田修一院長が会長として開催させていただくことになりました。期日は平成26年9月26日（金）と27日（土）の両日で鹿児島市のかごしま県民交流センターを会場に予定しております。

日本医療マネジメント学会は、医療マネジメント手法の開発と普及をはかり、医療の質の向上に寄与することを目的として1999年に発足し、クリティカルパス・医療安全・医療事故・地域連携・医療経営など医療現場に向き合った学会で、病院関係者全てを対象とした学会です。医師のみでなくコメディカルスタッフの参加も多い学会です。

今回の大会のメインテーマは、「病院o病床機能分化と地域医療連携」と致しました。社会保障制度改革国民会議の報告を受けて閣議決定された中に、病床の機能分化・連携及び在宅医療・在宅介護を推進するために、必要な事項の措置を行う事がうたわれており、各医療機関も今後対応を求められることとなります。本大会は皆様とこのようなテーマに沿って現在の医療情勢を考える良い機会となれば幸いと思います。

現在県内医療機関から18名の方に実行委員として参加していただき、内容を検討しております。決定している演者と致しましては、基調講演を日本医療マネジメント学会理事長の宮﨑久義先生、特別講演を厚生労働省健康局健康局長の佐藤敏信先生、招待講演（兼市民公開講座講演）を志學館大学人間関係学部教授の原口泉先生にお願いしております。教育講演は国際医療福祉大学大学院教授の武藤正樹先生、福井大学医学部附属病院副病院長・看護部長の橘幸子先生、愛媛大学医学部附属病院総合診療サポートセンター長の櫃本真聿先生にご承諾いただいております。シンポジウムは、医療安全『医療安全は新たなステージに』、地域医療連携『病院・病床機能の分化と地域医療連携』、チーム医療『急性期病院におけるチーム医療』、医科歯科連携の4テーマを予定しています。その他に、教育セミナー、医療安全講習、フリートークセッションなどを予定しています。

また例年通り、一般演題（口演）・クリティカルパス展示を募集し、演題申し込みは4月2日から開始予定です。詳細は決まり次第ホームページ等でお知らせ致します。鹿児島医療センターでの取り組みにつきましても多くの演題を発表し、いろいろご意見を伺いたいと思っておりますが、鹿児島の多くの医療関係の多職種の皆様も演題発表、学会参加していただき、「病院o病床機能分化と地域医療連携」を九州及び鹿児島で速やかに行っていくためにはどのような方法があるか、何が求められているかを一緒に考えていただけたらと願いながら事務局として準備を進めているところです。多くのご参加をお待ちしております。

文 責：日本医療マネジメント学会第13回九州・山口連合大会実行委員長
リハビリテーション科医長　鶴川　俊洋

第１回 QC活動発表会

今年度より医療サービス向上委員会のQC啓蒙グループとして、職員が学習し各部署でのテーマを決めて取り組みを行うことができることを目標に活動を始めました。QC活動の周知させる研修会を「QCとは」「QCの手法」について各部署のQCメンバーを中心に行いました。研修会の後、各部署のQCの取り組む内容についてテーマの選定を行い、１年間を通じてそれぞれ活動しました。

QCの活動発表会の発表日時を２日間に計画して、１７部署が発表しました。内容は、医療安全や環境整備に関することやサービスの向上に関することが多く、各部署興味深い取り組みをされていました。QC活動発表会の評価表を作成して、公平に評価できるよう審査員を決めて順位が決定され1位:東7階、2位:東5階、3位:西3階でした。今後は国立病院機構QC活動奨励表彰に提出して、さらに病院全体でのQC活動が活性化することを期待しています。

医療サービス向上委員会
QC 活動啓発チーム：中元 めぐみ

■第２位「NO！（脳）肺炎」

今回、東５階病棟では脳卒中の合併症に多くみられる誤嚥性肺炎の予防について取り組みましたが、医療の質の向上がコスト削減にもつながり、患者・家族、医療者の双方にとってより良い医療となることを学ぶことが出来ました。また入賞したことで、スタッフのQC活動への関心を高めることにつながり、東５階病棟の摂食・嚥下チームの活動を病院全体へ伝えることができました。QC活動を進める上で、問題の要因を分析する事が不十分であったため、具体的に取り組むことが出来なかったので、今後はQCの技法に沿った要因の解析と、明確な対策を立案し取り組んでいきたいと考えます。そして、今回の結果を病棟全体で共有し、一人一人が継続した医療を提供できるよう心掛けていきたいです。

東5階 病棟：野嶽 亜里沙、畠野 綾、高崎 裕子
前園 友美、養田 尚美、中島 隆宏

■第1位「業務改善によるコピー用紙の削減」

電子カルテへ移行となりましたが、東７階病棟ではフリーシートへの移行ができておらず約半数がワークシートを使用していました。看護師の情報収集に使用するコピー用紙が1日約２００～３００枚であり、今回“よーし（用紙）減らすぞー”を合言葉にフリーシートへの働きかけを行ったところ、約6割削減することが出来ました。病棟における無駄がないかに着眼し、QC活動を通してスタッフのコスト削減に対する意識が高まりました。年間６０００円程度の削減ではありますが、日々の積み重ねが大切であるため、今後も継続していきたいです。

■第３位「病院用オムツ導入に伴う管理方法についての取り組み」

西３階病棟では、QC活動としてオムツの導入に伴う管理方法について、コストの取り漏れをなくすため『請求もれなくそう隊』が中心となり、オムツ棚の整理行い、活動してきました。その結果、取り組み前に比べ、取り組み後はコスト漏れが減少していることが分かりました。この度QO活動の発表で3位に選ばれ、自分たちの活動が評価されたことにうれしく思っています。今後もオムツのコスト漏れが最小限になるよう活動を続けていきたいです。

西3階 病棟：登島 有紀

平成25年度 がん・循環器病・脳卒中看護エキスパートナース研修の報告

鹿児島医療センターは、がん・循環器・脳卒中の３つを柱とした医療を提供しており、専門的な看護実践のできる看護師の育成を目的として、各領域のエキスパートナース研修を開催致しました。循環器病看護エキスパートナース研修は、国立病院機構の九州ブロック主催研修で、九州管内の９施設１３名の参加で実施致しました。また、公開講座は、県内２０施設より（表１）多くの方々に参加していただきました。特にがん看護や循環器病看護のエキスパートナース研修の地域施設からの参加は、昨年より倍に増え連携を持ちながら専門領域の知識を深める事につながっています。

この研修は７～８日間の研修で、専門分野の医師や認定看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなどを講師とし、講義・病棟実習・大学教授の看護事例指導など基本的知識から実践まで系統立てて学べる研修です。実習は、手術見学からＩＣＵでの集中的看護、心カテ治療、リハビリテーションの実際、退院支援までの一連の看護の流れを学べるようにし、９人の専門分野の認定看護師が入り指導を行った事は、より専門性のある看護実践につながったと考えます。

さらに、研修運営で重要視した事は、専門領域での看護を積み上げて参加している研修生の経験知を活かせるように、講義での知識と臨床現場での看護実践の統合を意図したグループセッションを毎回行った事です。そのことは、知識を深めるだけでなく、施設の現状や自分の看護を振り返り、根拠づけた看護実践や今後の課題の明確化につながりました。研修後は、それぞれの施設でベットサイドリハや早期退院支援など専門分野での看護実践に取り組んでいます。また、施設の背景はちがっても研修生同志の情報交換のネットワークつくりにもつながりました。

今後も、それぞれの専門分野での看護のリーダーシップを発揮できるような看護師の育成ができるように、研修内容を充実させていきたいと思います。

今回、３つの領域のエキスパートナース研修や公開講座に、多くの施設から参加していただきました事、心より感謝申し上げます。平成２６年度のがん看護・循環器病看護・脳卒中看護のエキスパートナース研修への皆様の参加をお待ちしております。

（文 責：教育担当師長　中村　千鶴）

研修名	期間	研修生参加数		公開講座参加数	
		院内	院外	院内	施設数・参加数
がん看護	7日間（9/17～26）	5名	10名	124名	20施設 154名
循環器病看護	8日間（10/21～10/30）	5名	8名（九州管内）	104名	15施設 188名
脳卒中看護	7日間（12/2～12/10）	3名	13名	76名	4施設 84名

＜がん看護＞グループセッション

＜循環器病看護＞心カテ室実習

＜脳卒中看護＞運動認知機能評価演習

鹿児島医療センター 新人看護職員研修案内 楽しく学ぶ基礎看護技術講座 14：00～17：00

当院では、平成26年度新人看護職員を対象にした研修を企画しています。院外からの受講される方を募集しています。一緒に楽しく看護の基礎を学びましょう。

- ■「フィジカルアセスメント」 ・平成26年5月31日（土）講師：集中ケア認定看護師　田代　祐子
- ■「救急看護の基礎と対処法」 ・平成26年7月19日（土）講師：救急看護認定看護師　伊藤　由加
- ■「実践に活かそう、看護師としての対話力」 ・平成26年9月27日（土）講師：教育担当師長　中村　千鶴
- ■「人工呼吸管理中の呼吸ケア」 ・平成27年1月24日（土）講師：ＲＳＴ（呼吸ケアチーム）

参加を希望する方は研修参加申込書をご覧になり、必要事項をご記入の上、当院にＦＡＸで申し込んでください。
尚、連絡先につきましては個人の場合は自宅、団体の場合は病院の住所をご記入ください。４月30日までに決定通知書を送付致します。

問い合わせ先　鹿児島医療センター　教育担当師長：中村　千鶴　FAX番号 099(226)9246　電話番号 099(223)1151

■お問い合わせ先　独立行政法人 国立病院機構 **鹿児島医療センター**（循環器・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853　鹿児島市城山町８番１号

(代)TEL 099(223)1151　FAX 099(226)9246　http://www.kagomc.jp

【地域医療連携室】薗田・四丸・永重・重吉・森・鷲頭・吉留・山口・酒井・櫻木・竹田津
フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476
※休日・時間外は当直者で対応します。